

JICA ラオス保健医療サービスの質改善プロジェクト チーフアドバイザー  
国立国際医療研究センター 国際医療協力局  
村井 真介

ベスト口演賞をいただき、プロジェクトチームを代表して、感謝と御礼を申し上げます。

国際協力機構（JICA）が 2016 年 2 月から進めるラオスの「保健医療サービスの質改善プロジェクト（通称 QHC プロジェクト）」は、一見つかみどころのない「医療の質」を国際協力で直接扱うプロジェクトです。

これまで、保健人材、医療機材、病院インフラ、政府予算等の資源の制約が著しいラオスでは、医療の国際的な標準を導入しようにも、医療現場の実践が伴いづらいたことが問題となっていました。QHC プロジェクトでは、病院が自ら改善機会を選択することで病院の質改善へのコミットメントが高まり、病院の質改善の推進力になることを期待して、まず「ラオスの人々が思い描く医療の姿」を描き出しました。そのような医療の質の目標を目指すことが、ラオスの人々による主体的な質改善活動の助走となり、国際標準の段階的な導入にもつながると考えたからです。今回賞をいただいた「病院の質基準」と「定期質評価」は、そのような国際協力の介入のひとつのかたちです。

「質を考えることは目的を考えることである」とは故上原鳴夫名誉教授の言葉ですが、ラオスの人々が日々思い描いていた医療の質を改めて議論することで、ラオスの人々が今自分達で取り組める医療の質の目標を設定し、定期的に評価して医療の質の現状と自病院での質改善活動の取り組みを把握し、質改善活動の実践へとつながっています。もちろん、主体性を促すことは、同時に無謀な自助努力をも促すことにもなりかねません。これに対処する介入も QHC プロジェクトの事例等から今後研究していく必要があると考えています。このことは、2018 年に世界保健機関が提唱した「Local Definition of Quality」の目指すところでもあると思います。

プロジェクトメンバー（ラオス保健省、ラオス南部 4 県、国際協力機構）一同、今回の受賞を励みとし、なお一層の研鑽を重ね、ラオスの医療の質・安全の発展ならびに日本と世界の医療の質・安全分野での国際協力の発展に寄与して参りたいと存じます。

この度は、ベスト口演賞をいただき、誠にありがとうございました。

